

R18

FOR
ADULT ONLY

ALTER NATIVE

ハカモリカエルナティ

VICTOR GLANTZ

×

ANDREW KREISS



×



IDENTITY V
unofficial
fanbook



ビクターー！

今からの試合
頑張ってきてくれ

上手くいくよう
僕も祈っておく
から……

んっ！

それじゃあ

いってらっしゃい

だ

っ



ビクター……

やっぱり
今日も最高に
かわいい……!

なあ
クレス君
ところで

ずっと思っ
ていたんだが……

君たち二人共
最近とても
仲が良いだ
な!

……いや
何回言わせ
る気だよ!

その……あのな
僕とビクターは
3ヶ月前から付き
合ってるんだが?!

へえ? そうなの
君たちって友人
同士かと思っ
てた

まあ別に
いいんじゃない?
(ゴキョウ)

ん?
そうだったか
すまない
っし忘れて
しまっていた

……うぐ

なぜか前にも
エドガーに同じ様な
こと言われた気がする……

なるほど

悪かったね
それなら彼とはもう
済ませてる訳か?

そういう
こともさ

え?
何を……

……は?
ハア?!

そっ
それは……
それはだな……



もっ もも
もちろん

勿論あるに
決まってる
が……?!

いや
クレスくん
君無理して
ないか?



先に言ったのは
僕の方からだった

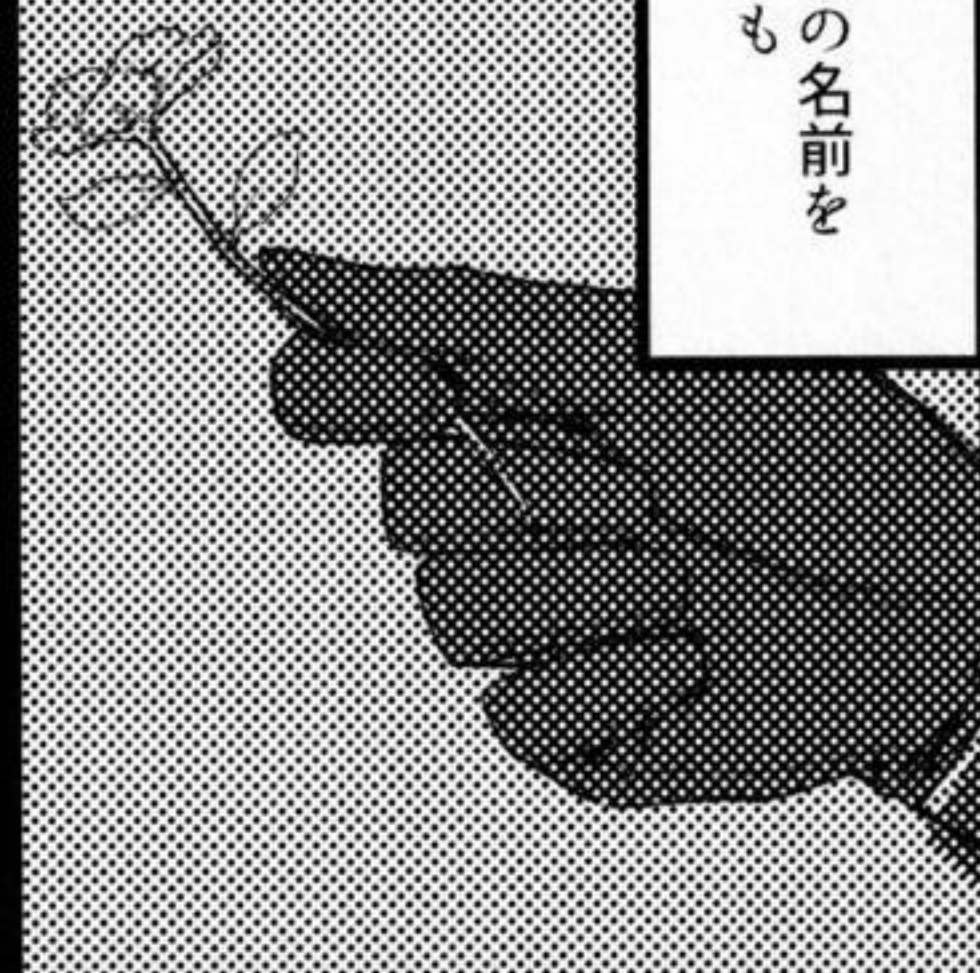


彼……ビクターとは
ずっと続いていた
手紙を通して

いつしか親密な
関係を築くように
なっていた

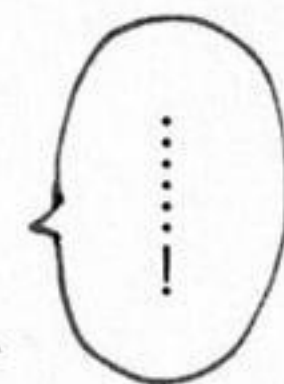


沢山の花の名前を
知れたのも



見飽きるくらい
眺めた月が綺麗だと
初めて思えたのも

僕が他人に好意を
素直に伝えられる
ようになったのも



思えば全て
彼がいてくれた
おかげだ



だから

彼が僕とそういう関係に
なってくれることを
喜んで了承してくれた
のはすごく嬉しかった



でも恋人同士に
なってから何か
大きく変わった
という訳でもなく

あくまで
これまで通りの
接し方である

そういうことに
興味が無いと
言えば嘘になる

けれど……



それを実際に言える
勇氣は流石に
僕にはなかった

いやだってそもそも
ビクターの方が
望んでるかも分から
ないし僕1人の勝手な
欲望かもしれないだろ!!
彼はそういう……
関係までは求めて
ないかもしれないし
とかいうか僕に魅力
なんてあるのか?
身体だって
易だっけで化すの

ああ
分かった
分かった

とりあえずさ

誘って
みれば分かる
話だろう?

えっ……?

なあ
ビクター

その……

今日の夜……

いっ
だけ
だけ

その!

もしも!
もしも明日用事が
なければ

部屋に
遊びに
いっても
いいか?

ビクターの
気持ち
確かめるのは
今日しかない

あでも
無理なら全然
断っていいし……

う……

ほらたしか僕たち
どっちも明日は
試合がなかったし

ダメ元で伝えて
みよう……



……うん
いいよ

その……

待ってる
……!



でも……
すごく嬉しう……!

どうしよう
緊張で何も手に
つかないや
手紙でも書いて気を
紛らわせようと
思ったのに
アンドルー……
遅いな……



そういえばいつも部屋に
遊びに行くのは僕の方から
だった
明日はどちらも試合の
無い日……
その日にアンドルーが来て
くれるって……つまり……
いや考えすぎかもしれない
でも



どうしよう
考えずにはいられない……!
僕たちの感情って手紙から
始まったプラトニックなも
のだと思ってた
それでも構わなかったけど
……彼もそう望んでいた
のなら嬉しいかも……
いままで勇気がなくて言い
だせなかった
でもこの日しか機会はない
かもしれない



今日こそは……
僕の方から言ってみよう……

トビトビ

あ……
このノックの
音は！

アンドルー！

やあ

カ
キ
ア

……あれ？

こんばんは
グランツ君

やっと会えたね

……？

アンドルー？
でもいつもと
雰囲気が違う

どうしたの？
僕だよ
アンドルー・
クレスだよ

おめかししてる……？
時間がかかったのは
このせい？
まるで別人……

たしか君って僕の
恋人……
なんだよね？

え？

しかも勝手に
入ってきた……

ふふ 太陽みたい
に明るい
はちみつ色の髪……

おいしそうで
健康的に焼けた肌色

本当に
かわいい人だ
……

……僕も君が
気に入ったよ

なにを
言うてるの？
この人……

まるでこっちの
僕と正反対

そう
ちよつと味見
するだけだから
♡

あの
だれ……
ですか

大丈夫
僕は僕だよ……！
怖がらないで

?! 待つ……

もちろん僕の
ことも食べて
いいからね……♡

!!
キーン

んんん

んんん

ひん

僕は特別な力があってね
人間の抱えている欲が
手に取るように分かるんだ

金も権力も
愛情も……

君がこの世界の
僕に対して抱いて
いる本当の欲望も

君に触れ合えて
よく分かったよ

……えっ？

ずっと
彼とこう
してみたかった
んでしよう？

僕なら彼の
代わりに応えて
あげられる

だから……愛しい子
こちらにおいで？

あっ……？!

ジュウ……!



この世界の僕は
すごく奥手だから

ずっとやきもき
してたんだよね？

うそ……っ!?
アツドルにそっくりな姿で
そんなことしないで……

自分でするより
気持ちよくさせて
あげる グランツ君

我慢しなく
ていいよ

僕ならいくらでも
君の欲望に従って
あげるから……ね

頭ではダメだって
わかってるのに
身体が抑えられない……

あ……

あ……
あ……
あ……

あ……

あ……

あ……

あ……

あ……

あ……

あ……

あ……

あ……

あ……

あ……

あ……

あ……

あ……

あ……

そ、そんなら?!
 見つかったら?!
 だめっ……なのにつ♡
 この人はアンドルー
 じやないのに……っ♡



だめ♡だめっ♡
 気持ちよすぎて
 頭おかしくなるっ♡

おちんちんの先
 すぐくぬるぬる
 してきた♡



もう限界
 でしょ?

ほら
 びゅーびゅーって
 たくさん出して



~~~~っ!?



いっぱい幸せ  
 になるう?





んうっ?!

ほらっ  
出しちゃえ

あっ♡  
あああ…っ?!

いやっ! いやたっ  
もうだめっ♡  
てちゃう♡全部でちゃうっ♡  
気持ちよくて止められないっ♡



はあっ♡  
ねえ…グランツ君  
気持ちよかったでしょ?

それにかなり  
溜まってたね

だってほら  
さっきイツたばかり  
なのにまだまだ  
元気そう♡



ね………  
今からさ

セックス  
しちやおう  
よ♡

君の欲望がもつと  
大きくなってる  
のが分かるんだ

もつと僕と  
気持ち良い  
ことがしたい  
♡

僕のナカ  
すごく柔らかくて  
あったかいから

きつと君も  
気に入って  
くれると思うよ

僕なら  
すべて  
満たして  
あげられる

えっちなことして  
もつと気持ちよく  
なろう………?  
僕とさ♡

ねえグランツ君の  
ミルクいっぱい  
欲しいな………

スリー  
スリー  
スリー

はっ♡  
はあ♡  
はあ♡  
はあ♡

おっ  
おっ  
おっ





怖い……っ  
アンドルー  
た助けて……



だだめっ……!  
だめだ……ここで  
負けたら……

がが

がが



……ター?  
ガキ  
カキ  
チャ

大丈夫か!!  
ビクターーツ  
!!!  
!!!  
!!!

おい!!

……  
なっ?!



あれ?意外と  
早く来たね

……!





は？え？  
何やってんだ  
あんな達……  
ってか

……ぼ、僕？!

どどういう  
ことだ?!

どういう事も  
なにも僕は  
君の一部だよ

……?  
?

僕はチーズ!  
君の数ある欲望から  
生まれた人格  
もう一人の僕さ

僕達は基本  
同じ世界に存在  
することは無い

ただ今回のように  
例外もあるんだ

満たされることの  
叶わなかった  
あらゆる欲望が  
積み重なった結果

僕という存在を  
実体化させたんだよ

それにこっちの僕には  
恋人がいるなんて聞いたら  
どんな子か気になっちゃう  
のは仕方ないよね?

確かにこんなに  
かわい子が  
居たら好きに  
なっちゃうかもなあ

できることなら  
こっちの世界に  
連れて帰っちゃおう  
かなって思った  
くらい……

カキ



黙っていれば好き勝手  
言いやがって！  
お前にビクターの  
何がわかる！

そんなに  
怒らない  
ですよ

そっ それは……

大切に想ってたんだ！  
いきなりそんなこと  
するのはよくないかも  
しれないって  
思ったし……

いや  
とにかく！

これ以上気安く  
ビクターに手を  
出すな……  
いくら僕だからって  
容赦しないぞ！



あせ

あせ

うん  
うん



カッ

君たちの欲望を  
満たしてあげ  
ようとした  
だけなのに  
だつてまだ  
ちゅーもして  
なかつたって  
思わな  
かつたんだ



君のグランツ君に  
対する愛情をここで  
今証明してみよう

だつて君

は？

最初からその  
つもりで  
グランツ君の  
部屋にきた  
んだもんね？

……っ  
!!

そう

それならさ……



つまり  
いっぱいグランツ君を  
幸せにさせてあげた  
方が言うまでも  
なく恋人として  
ふさわしいはずさ！

なっ……  
なんだと……?!

なんかよく  
わからないまま

勝手に話が  
進んでる……!

ふん  
望むところだ

えっ?!

何ふざけた  
ことを

言ってるんだ  
この頭ケーキ  
畑野郎……

そんなの僕が正式な  
恋人だから当然  
あんたよりビクターを  
幸せにしてやれるに  
決まって……



きつ……きき  
決まってるっ！

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

いつ今すぐ  
見せつけて  
やるからなっ！

アンドルー  
緊張してる……

手助け  
しようか？

うるさいっ！

ビクター  
……っ！

今まで勇気がなくて  
言えなかったけど  
本当はずっと前から

あんたともっと  
何というか……  
親密な関係に  
なれたらって思ってた

えっと……！  
親密っていうのは  
例えば！

体をもっと  
くっつけたりとか……  
それ以上のこととか  
えっと……

うう……

何言っ  
んだ僕……

アンドルー  
……









ビクターだって  
その……  
ここキツイだろ

あっ……!!

さす……

びくっ



いや……とにかく!!  
あんなよくわからん  
ケーキ野郎に  
あんたを取られる  
なんてまっぴら  
ごめんだ……!!

絶対に僕の方が  
ビクターのこと  
何倍も何倍も  
大好きだから……!!



それに

下全部脱いで  
いいから……

……僕も脱ぐ



かあ……

そそんな  
見ないで……  
(興奮してるのかたぶん  
で恥かしい)



キミン

いや待て  
思ってたより  
も大きい

頑張るから……  
僕はビクターに  
気持ちよくなって  
ほしい……



ねえそういえば  
君って口での  
仕方は分かるの？



な？えっ？  
……そっ  
それは……



グラントツ君のをね  
舌で舐めたり  
口の中に入れてたり  
して……

ほら  
こうやる  
んだよ？

へっ？!

ドキッ

んうっ？!

ビクッ

はあ？  
そのくらい  
できるに決まって  
るだろ?!  
子供扱いしないで  
くれるか？

うん 上手上手  
僕にしては  
やるんじゃない？

僕にだって  
な……!  
んぐっ

うるひやいっ  
……!

というから  
ひとりでき  
あつちから  
いけよ!





この光景って  
現実……？

頭がくらくら  
してきた



なあビクター！  
気持ちいいか……？



あ……っ  
えっと……！  
……うん  
き……  
もちいい  
よ……



やっぱり……  
すごくかわいい

もしかして  
僕で興奮して  
くれる……！？



アンドルー……  
恥ずかしいが屋  
なのになんばって  
くれる……

ビクターの……  
もつと大きく  
なってる……  
のが分かる……！





あー...ツ?...  
な...うあ?!

トキ

いぶ

あ?!

いっ

いっ

つぱん...

かん

かん

シ

びん!

ひっ...

あッ

あっ!? あんた  
何して...?!

あっ

あ

あんなに...  
あっ♡

あっ

なに喘いでるの?  
ちゃんと...  
奉仕しなよっ♡

うっ  
あ...

なにつて  
お手伝いだよ♡

あ...

いっ

いっ

いっ

びん

いっ

いっ

いっ

いっ





なかにドロドロ  
したものが入って  
きてっ……!!

へえたしかに  
ある程度下準備  
してきた  
みたいだね

でも  
グランツ君のは  
大きいからもつと  
ほぐしてあげ  
ないとだーめ♡

あー  
中ぎゅうって  
締まってきた♡

あ??!

あ??!

あ……!!  
!ツ!?

あ!ツあああ……  
イっ?!♡うあっ♡

ちよつと!  
いくら僕の体液で  
敏感になってる  
からっつて  
お漏らししちゃ  
ダメでしょ♡

これからもつと  
たくさん  
気持ちよくなっ  
てもらわないと



あ……  
嘘……  
さっ……  
はっ……  
まっ……  
きた……

でもさっ……  
別の感覚……  
奥が切なくて  
たまらないっ……♡



ビクターの……  
入れられたら  
どうなっちゃうん  
だろっ……♡

欲しいっ……  
欲しいっ……  
ビクターのおちんちん  
欲しいっ……♡

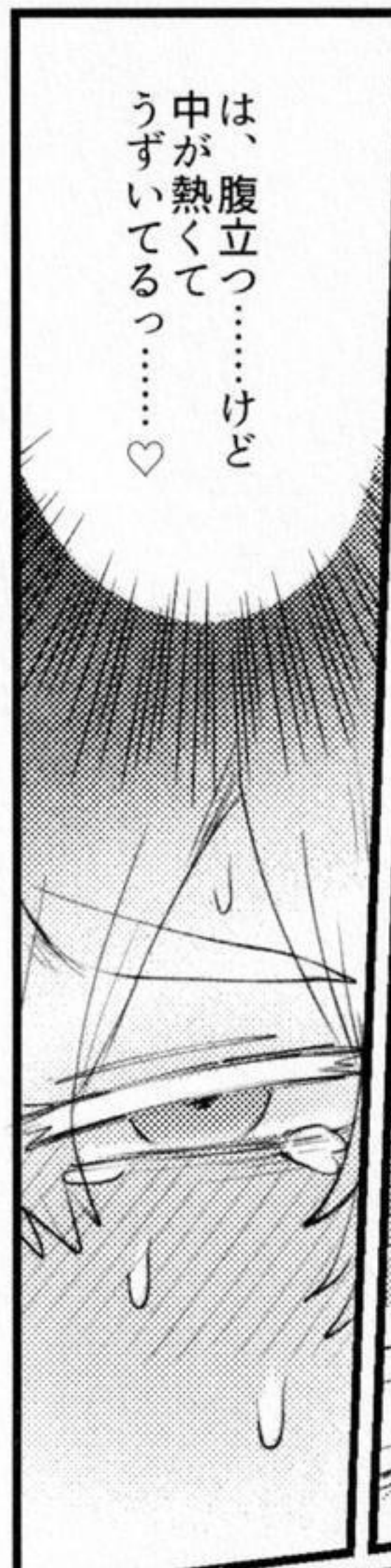




ハッ



グランツ君  
ほら準備  
できてるよ♡



は、腹立つ……けど  
中が熱くて  
うずいてるっ……♡



ななあ  
ビクター……  
いいか？



あんたのを……  
僕の中にいれても



あ……アンドルー  
……いいの？

良いに決まってる  
だろ……っ！



さつきから奥が  
じんじんして  
切ないんだ

むしろ早くきて  
欲しいくらい……

なあビクター  
入れて……  
挿れてほしいっ……

アンドルーの  
こんな顔初めて  
見た……

う……その  
痛かったらすぐ  
言っただけ……？

うん……

アンドルー……  
♡

あ……♡  
くるっ……♡  
ぬりぬりぬりぬり  
押し付け  
られてるっ♡

ききたっ♡  
ビクターの  
入ってきたっ♡  
ぬ  
♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡  
♡♡♡♡♡



んう……  
アンドルーっ  
きつくない  
……？

あっ……  
あっ……  
♡

いや……  
大丈夫っ  
動いていい  
から……

分かった

すごく大きい……  
けど……♡

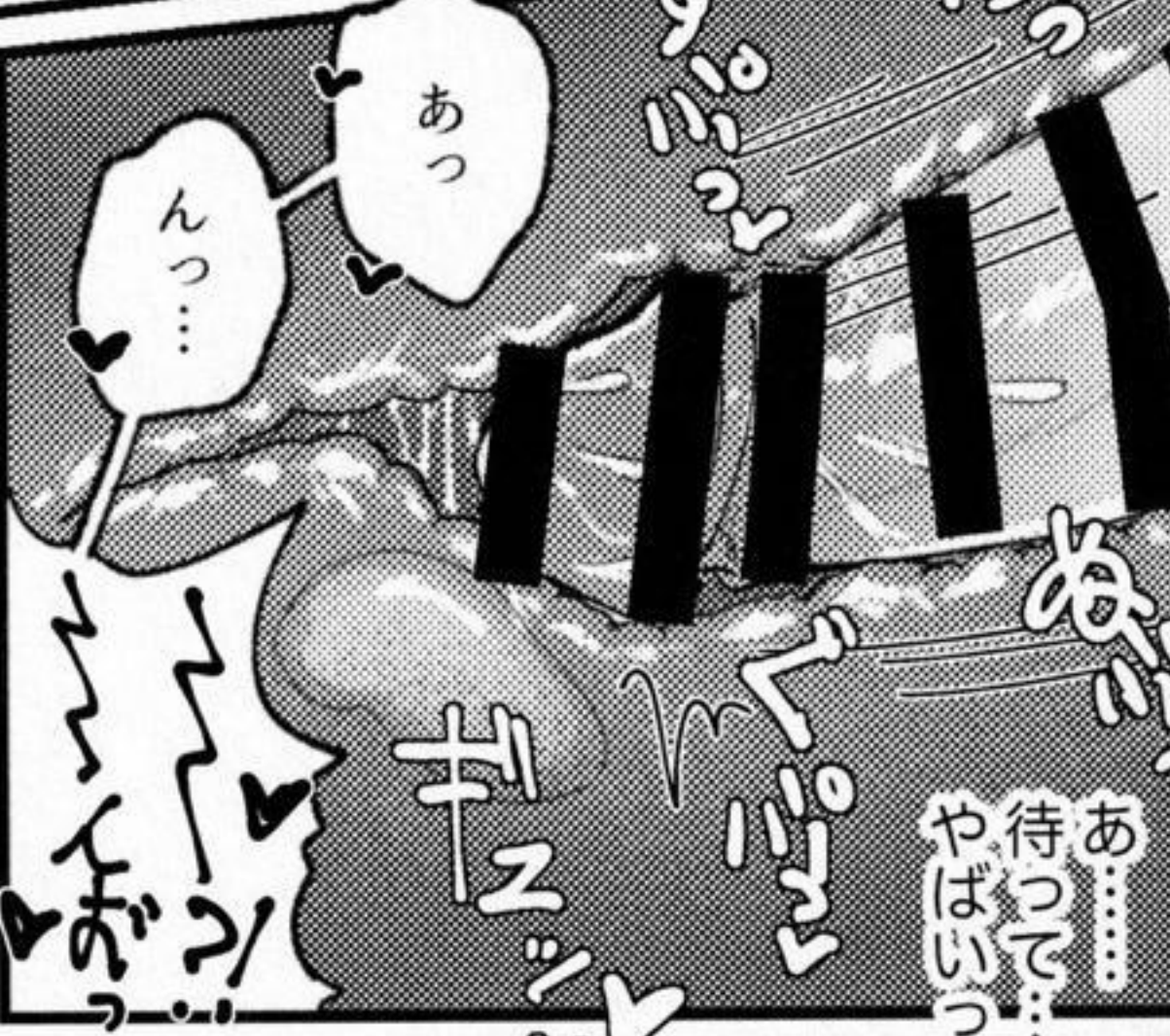
ピクターのっ♡  
入ってる♡



アンドルーっ  
ここ……  
気持ちいいの？

あっ♡

あっ♡



んっ……

あ……  
待って……  
やばい……

はあ♡

そこ……♡  
当たると変な  
感じするっ……♡  
ピクターあ♡  
あっ♡

あっ♡



























ちよつと  
まっ……♡

あ……♡  
あともう一回……♡

すき……♡

びび……  
びくた……♡

す……♡

んう……♡

……♡  
すごいっ♡  
なんて素敵  
なんだろう

ゴキウ

スリ

スリ



ふたりの  
幸せな姿

もっ……♡

もっと見せてっ  
……♡

シキ

シキ



次の日

いや  
なんで……

何でまだ  
お前が  
いる  
んだよ！  
というか  
勝手に僕の  
部屋に住もうと  
してるだろ！

だってすぐ  
あつちの世界に  
戻るの  
寂しいもん  
……

ちよつと  
くらい  
居させてよ

君たちも  
ずつと仲良  
なつた  
ことだしさ

これから  
もつと楽し  
いこと  
ができる  
と思うよ

ねだから  
今度は三人  
一緒に遊  
んで  
みない？  
♡

そつそんなこと  
……絶対に

あな  
させるかあーっ！

おいおい  
また一体  
何の  
騒ぎだ？

ビクター  
なんとか  
してやつ  
たら？

ナイチン  
ゲールさん  
呼ぶ？

んう……

ハア!!

END



# あとがき

という訳で『僕の日常を返してくれ〜っ!! ♡』エンドでした(?)  
この度は拙作をお手にとって頂きありがとうございます。  
なんとしてでも推しカブの本を作りたい!!!!!!という欲望と勢いで  
人生初めて作った本なのでお恥ずかしながら色々和不慣れで拙い部分がありますが、  
同時に好き放題したのもあり楽しく原稿できたので良かったです。  
この2人(3人かも)で本を出せたのも本当の本当にハッピーです!!

ここまでお読み頂き本当にありがとうございました!

てんでんばらばら

感想など頂けたら  
励みになります...!!



## 「Alternative」

発行者 : てんでんばらばら  
発行日 : 2021年03月21日  
連絡先 : Twitter @\_void\_void\_0  
Gmail constructivism1917@gmail.com  
印刷所 : 株式会社栄光 様

無断転載・複製・複写・インターネット上への掲載  
(SNS・ネットオークション・フリマアプリ含む)は禁止です。

**I wholly prohibit the following acts concerning this book:**

- Uploading on website or any other social media.
- Putting up for auction (such as Yahoo! auction, eBay).
- Resale

**Thank you for your cooperation.**





2 0 2 1 0 3 2 1



tenden barabara

発行 ◆ てんでんばらばら

